

# 福岡市衛生試験所報

ANNUAL REPORT OF FUKUOKA CITY HYGIENIC LABORATORY

第 3 号

昭和52年度

福岡市衛生試験所



## は　じ　め　に

当所設立以来はや7年を経過しました。

もともと、当所は全保健所における試験検査業務を集約することによって発足した経緯もあって、5つの保健所及び公害部から日々送付される行政上必要多量な検体の検査業務が主体であります。

このことは当面、設備投資及び人員配置上、極めて効率的な手段であります。

しかし一方、刻々変貌する衛生上の科学的諸問題に長期的視野に立って適応可能な技術の蓄積及び高度化を進める上では「二兎を追う」たとえのとおり、ルーチン業務に埋没し、沈滞化の傾向に流れることも又いなめない事実でもあります。この双方の問題を如何にアプローチ出来るかが今後の最も重要な課題といわねばなりません。幸に先般、新しい施設のための、かなり広大な用地の目途がつき数年後には、陽の目を見る可能性が濃くなってきました。

白砂青松を守り、青空と生きた緑におおわれた都市の創造のため、全力を傾注することを全所員誓い合っております。

今後とも御高覧いただいた皆様方の貴重な御教示と御指導を切望する次第でございます。

昭和53年11月

福岡市衛生試験所長

北 原 郁 也



# 目 次

I 概 要	
1. 概 況	1
2. 機構・事務分掌の人員	1
3. 職員名簿	2
4. 予 算	3
5. 備 品	4
6. 学会・研修会・会議等出席状況	5
7. 実習及び指導	5
II 業務報告	7
微生物部門	7
1. 腸内細菌	7
2. 梅 毒	8
3. ウイルス	8
1) インフルエンザ	8
2) 日本脳炎	9
3) 風 診	9
4. 食品細菌及び食中毒	9
5. 環境関係	9
1) 飲料水	9
2) 海水浴場	9
6. 公害関係	10
衛生化学部門	11
1. 飲 料 水	11
2. プ ー ル	11
3. 公衆浴場	12
4. 海水浴場	12
5. し尿浄化槽	12
6. 食品添加物、食品規格	12
7. 家庭用品	14
8. 魚の水銀	15
9. 残留農薬・P C B	15
10. 苦情処理	15
環境化学部門	19
1. 大気・悪臭	19
1) 降下ばいじん・いおう酸化物	19
2) 浮遊ふんじん	19
3) 悪 臭	20
4) その他	20
2. 水質・底質	20
1) 河川の水質	22
2) 河川の底質	24
3) 博多湾水質	24
4) 博多湾底質	25

5) 特定事業場排水	25
6) 苦情その他	25
8. その他	25

## III 調査研究

1. 1978年1月福岡市内に流行したA(H <sub>1</sub> N <sub>1</sub> )型いわゆるAソ連型インフルエンザについて	馬場純一他4名	27
2. ブドウ球菌食中毒推定原因食品(特に米飯食品)からのエンテロトキシンの検出について	小田隆弘他4名	37
3. 腸炎ビブリオの増菌培地の考案並びに既存培地との比較試験(仮称:TCBBブイヨン)(第1報)市販刺身、海水および海泥等からの腸炎ビブリオの検出	大久保忠敬他3名	42
4. 高速液体クロマトグラフィによる農作物中のCarbaryl(NAC)のケイ光分析法について	山崎哲司他3名	45
5. ケイ光灯破損時における環境中への水銀の放出について	椿美代子	49
6. 「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」の規制対象外製品におけるホルムアルデヒドについて	椿美代子	52
7. ばつ気式し尿浄化槽における分離型と全ばつき型の放流水質の比較について	山田良治他9名	55
8. 福岡市内河川におけるMBASの分布と推移について	吉武和人	57

## IV 資料

1. 福岡市における風疹抗体保有状況及びIgM抗体調査	馬場純一他1名	61
2. 冷凍食品・生うに・刺身及びふき取りにおけるC.l. perfringensの汚染について	磯野利昭他4名	65
3. 食品中の残留農薬調査について	山崎哲司	69
4. 福岡市の海水浴場の水質について	近藤久幸他5名	70
5. 分析機器の保守管理について(1)一記録計(レコーダー)のエレクトロニクス	廣中博見	72
6. 飲料水の理化学検査における運搬容器について	篠塚正義他2名	77
7. 市内河川底質中の重金属について(樋井川および瑞梅寺川)	宮原正太郎他2名	81
8. 血中重金属について	宮原正太郎他1名	84
9. 二酸化鉛法によるビル街の大気汚染調査について	関塚幸雄他2名	86
10. 化学物質環境追跡調査について	西原美子他4名	88
11. 水質汚濁指標としてのTODの評価について	吉武和人	91

## V 学会発表抄録

学会発表一覧	93	
1. ブドウ球菌エンテロトキシンCの精製	小田隆弘他2名	94
2. 自動分析措置による栄養塩類の分析	藤本和司	94
3. 福岡市における浮遊遊菌中の金属の動向について	関塚幸雄他2名	95
4. 大気中の塩素イオンの分析について	小寺信他2名	96

# I 概 要





1. 衛生試験所の概況

昭和45年10月 市保健所検査室を統合し、1課3係職員数13名で衛生試験所竣工発足

昭和48年4月 部長制がひかれ、職員数29名となる。

昭和48年8月 本階4・5階を増築

昭和50年4月 1部2課職員数36名となり現在に至っている。

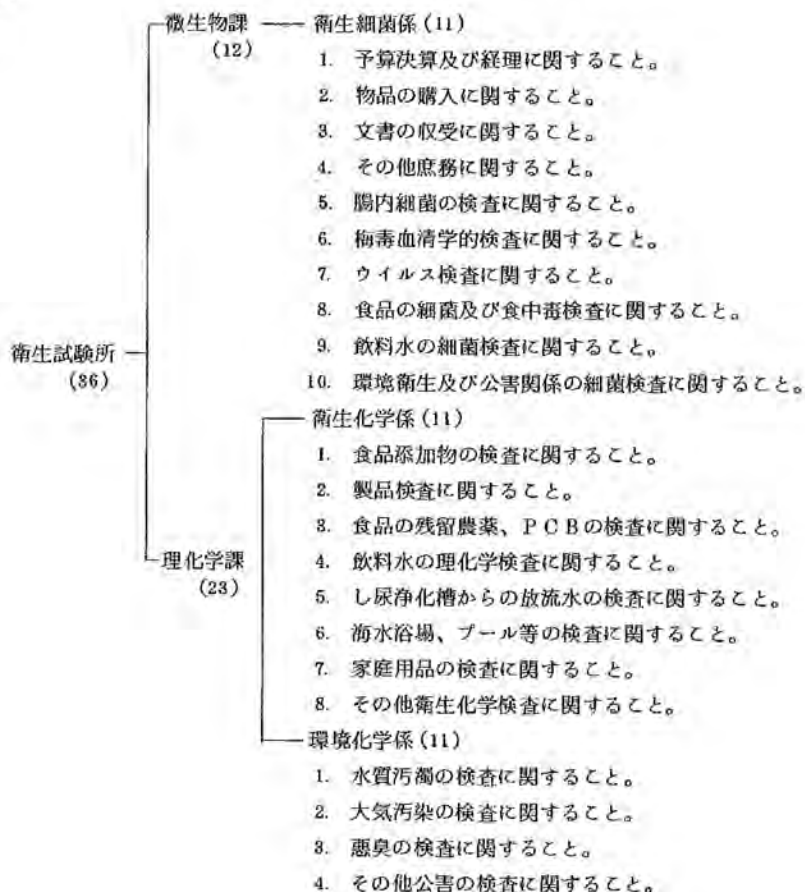
施設

敷地	中央保健所と共有	2,088.09㎡
本館	鉄筋コンクリート5階建	1,352.70㎡
1階	事務部門	77.95㎡
2階	衛生細菌検査部門	379.63㎡
3階	衛生化学検査部門	417.33㎡
4階	環境化学検査部門	412.20㎡
5階	所長室	65.59㎡
その他		
	動物舎	27.00㎡
	屋内危険物貯蔵庫	13.72㎡

2. 機構・事務分掌及び人員

昭和52年4月1日現在の機構及び事務分掌及び人員は図1の通りであり、勤務している職員は表1の通りである。

図1



3. 職員名簿（昭和53年8月31日現在）

表1

課名	係名	氏名	衛生試験所 配属年月日	役職等	担当業務
微生物課	衛生細菌係	北原郁也	50. 9	所長	衛生試験所総括
		大丸健之助	53. 4	課長	微生物課総括
		西本幸一	45. 10	係長  主任 // // // // // // // // //	衛生細菌係総括
		津留拓朗	52. 10		経理及び一般事務
		滝口礼子	52. 4		//
		大久保忠敬	46. 3		食品細菌，食中毒
		馬場純一	46. 4		腸内細菌，ウイルス，血清反応
		小田隆弘	46. 1		食品細菌，食中毒
		永原公一	51. 5		腸内細菌，ウイルス
		磯野利昭	48. 8		腸内細菌，血清反応
		永井誠	53. 5		水質細菌，食品細菌
		真子俊博	49. 5		腸内細菌，血清反応
安井シズ子	45. 11				
池田政義	52. 7	高速度建設局付			
理化課	衛生化学係	山本泰寛	45. 10	課長	理化学課総括
		金堂和生	52. 4	係長	衛生化学総括
		山崎哲司	47. 10	主任	農薬
		藤本喬	48. 5	//	食品規格，食品添加物
		篠塚正義	53. 5	//	飲料水，プール等の水質
		廣中博見	48. 7	//	PCB，し尿浄化槽
		近藤久幸	48. 7	//	食品規格，食品添加物
		楢美代子	50. 5		家庭用品
		小川正子	50. 5		飲料水，プール等の水質
		佐々木康江	50. 5		飲料水，プール等の水質
		中園早苗	51. 5		し尿浄化槽
		永田昌江	52. 4		食品規格，食品添加物
		環境化学課	環境化学	榑洋子	45. 10
西原美子	46. 5			主任	海，河川水質（健康項目，化学物質）
関塚幸雄	51. 5			//	大気
藤本和司	47. 6			//	海，河川水質（N, P, C）
林清人	48. 5			//	海，河川水質（健康項目，化学物質）
吉武和人	48. 7			//	海，河川水質（N, P, C）
小寺信	49. 12			//	悪臭
宮原正太郎	50. 5			//	海，河川水質（重金属）
高野昭男	53. 5				海，河川水質（N, P, C）
沼田茂世	50. 5				海，河川水質（重金属）
井上哲男	52. 4		大気		

(職員の異動)

昭和53年8月31日現在までの職員の異動は表2の通りである。

表2.

氏名	新	旧	異動年月
大丸健之助	微生物課長	水道局水質試験所長	53. 4
山本泰寛	理化学課長	微生物課長	53. 4
峯尾晴	水道局水質試験所長	理化学課長	53. 4
永井誠	微生物課衛生細菌係	水道局高宮浄水場浄水係	53. 5
尾崎延芳	第1病院臨床検査室	微生物課衛生細菌係	53. 5
篠塚正義	理化学課衛生化学係	食品衛生検査所食品係	53. 5
山田良治	博多保健所衛生課食品係	理化学課衛生課環境係	53. 5
高野昭男	中央保健所衛生課環境係	中央保健所衛生課環境係	53. 5
寺田和光	西保健所衛生課環境係	理化学課環境化学係	53. 5

4 予 算

1) 歳入(依頼検査は、保健所の歳入として計上される。)

表3.

(単位:千円)

費目	件数	収入額	備考
使用料及び手数料	7,5855	19,909	※減免を除く

2) 歳出

維持管理費は、保健所費、事業にともなうものは、関係部課の令達であり、衛生試験所の努立予算費目はない。

表4. 昭和52年度歳出決算額

(単位:千円)

節目	予備費	環境衛生費	食品衛生費	公害対策費	保健所費	計
特殊勤務手当					252	252
共済費					2	2
賃金	831	415	248	1,997	3,039	6,530
報償費					44	44
旅費		56		315	792	1,163
需用費	1,463	5,218	6,557	17,581	10,864	41,683
役務費					685	685
委託料					539	539
備品購入費	3,943	24		17,780	3,600	25,347
負担金補助金及び交付金					380	380
	6,237	5,713	6,805	37,673	20,197	76,625

## 5. 備 品

発足当初からの主要備品の整備状況は表5の通りである。

表 5. 主 要 備 品 一 覧 表

機 器 名	数量	機 種 名
ガスクロマトグラフ	11	柳本G8F(1) 島津8AE(1) 柳本G800E(1) 島津8BE(8) 島津3BFP(1) 島津4BM-PF(1) 島津3BF(1) 島津GC-4CM(1) 島津GC-4CMP(1)
高速液体クロマトグラフ	1	島津880(220付)
分光光度計	5	日立333(1) 日立101(1) 島津SP88(1) 日立189(1) 島津SP20(1)
光電比色計	1	コーニング社-M-253
赤外分光光度計	1	日本分光1RA-1
蛍光分光光度計	1	日立204-0006
原子吸光分光光度計	2	日立303, 柳本AA-780(AS検出器付)
水銀分析計	2	コールマンMAS-50, 島津UV-201
ポーラログラフ	1	柳本P8-S
オートアナライザー	2	テクニコンオートアナライザーII型
全酸素消費測定装置(TOD)	1	湯浅IONICS-225
全有機炭素分析計(TOC)	1	東芝ベックマン102
CNコーダー	1	柳本MT-500
油分測定装置	1	柳本OIL-102
イオンメーター	2	オリオン407, 堀場F-7
重油イオウ量測定装置	1	東芝AGK77108
臭気濃度装置	2	日本オゾン100L, 島津VPC-1
低温灰化装置	1	柳本LTA-4S
直示天秤	6	メトラー(2), ザトリウス(3), トーション1104(1)
クリーンベンチ	1	日立CCV-810
蛍光顕微鏡	1	千代田FH-200A
高速遠心機	3	国産H-102, トミーCM60RN, トミーCD-70SR
冷却遠心機	1	トミーRS20P
冷凍庫	6	ワールプールWV18(2) レブコULT(1) レブコUNF-16(1) 日立RF-179F(1) レブコVF-21
超音波破壊装置	2	海上電気TA-4280(1) ブランソン52型(1)
凍結乾燥装置	1	日本真空技術DF-02F
全自動純水製造器	1	三田村12-42
製氷機	1	サンヨーSIM-30A
高圧ポンプ	1	ミルトンロイスF-0396-31
フラクシオンコレクター	1	角型重量式SF-160K
排水処理装置	1	LTP-20M
恒温槽付往復式振温培養機	1	TA-60T
オートマチックピペッター	1	クック社222-1A
オートマチックダイリユーター	1	クック社222-201PR

## 6. 学会・研修会・会議等出席状況

学会・研修会・会議等の出席状況は表6の通りである。

表6. 学会・研修会・会議等出席状況

学会・研修会・会議名	開催地	開催月日	出席者氏名
地方衛生研究所全国協議会理事会	東京	4.26~28	北原郁也
日本食品衛生学会	東京	5.18~20	山崎哲司
福岡県公衆衛生学会	福岡	5.24~25	小田隆弘他13名
地方自治体公害試験研究機関所長会議全国公害研究協議会総会	東京	6.1~3	北原郁也
全国地方衛生研究所長会議地研全国協議会	東京	6.14~15	北原郁也
環境化学物質分析担当者会議	東京	6.28~29	藤本 喬
地方衛生研究所全国協議会九州支部総会	福岡	8.26	北原郁也他7名
指定都市衛生研究所長会議	湯河原	9.12~14	北原郁也
化学物質環境汚染・調査説明会	東京	9.20~21	藤本 喬
九州・山口薬学会	佐賀	10.21~22	椿美代子・林清人
地研全国協議会理事会及び総会出席	神戸	10.24~26	北原郁也
日本公衆衛生学会	神戸	10.26~28	磯野利昭・尾崎延芳
大気汚染研究全国協議会	福岡	11.9~11	関塚幸雄他2名
日本細菌学会九州支部総会	沖縄	11.25~26	小田隆弘
オートアナライザー講習会	東京	11.27~12.3	藤本和司・近藤久幸
家庭用品安全対策行政担当者会議	東京	11.29~12.2	椿美代子
化学物質環境追跡調査打合せ	東京	11.30~12.2	吉武和人・柳洋子
日本感染症学会西日本地方総会	岡山	12.2	馬場純一
九州衛生公害技術協議会	鹿児島	2.9~11	峯尾晴・寺田和光・山田良治・小寺信
地方衛生研究所全国協議会	東京	3.24~25	北原郁也
インフルエンザシンポジウム打合せ	熊本	3.28~29	馬場純一
環境庁分析法研究発表会	東京	3.30~4.1	峯尾晴・西原美子・林清人

## 7. 実習及び指導

実習及び指導の状況は表7の通りである。

表7

年月日	実習対象	人数	内容
6.6~7.11	福岡歯科衛生学院	61	腸内細菌実習
7.12	(株)不二食品	1	H <sub>2</sub> O <sub>2</sub> 検査法
8.10	福岡市教育委員会	10	ソルビン酸, POV, AV
8.10	学校給食センター	1	食用色素の検査法
9.18	まるわ水産	1	H <sub>2</sub> O <sub>2</sub> 検査法
12.9~10	中村学園大学	98	公衆衛生学実習



## II 業 務 報 告





微生物部門

衛生細菌係で52年度におこなった試験検査業務と市内5保健所、2健康相談所における臨床検査業務を表1に示す。52年度から新規事業として風疹抗体検査を開始し408検体の検査を行った。

52年の年末に、日本侵入が懸念されていたAソ連(H<sub>1</sub>N<sub>1</sub>)型インフルエンザが冬休み明けと同時に学校集団を中心として流行した。

今年の食中毒発生件数は16事例で例年に比較して、発生件数は少なかったが、ブドウ球菌によるものが目立った。

1. 腸内細菌

52年度の腸内細菌検査は42,351件で、検査の内訳は表2、表3に示すとおりである。

防疫検便において、接触者(家族)より検出したS. paratyphi-Bは患者と同じファージ型(3a)であった。次に中近東、アフリカ旅行の帰国者からSh. dysenteriae2を検出した。

又東南アジア旅行者の内38名についてコレラ菌検索を行った結果、1名からNAGビブリオ(O-26)、3名から腸炎ビブリオを検出した(表3)。

チフス患者、保菌者由来のチフス菌及びパラチフス菌のファージ型を表4に示す。

表1 検査件数総括

区分	依頼種別	計	保健所		その他行政機関	
			依頼	行政		
計		64,228	59,026	3,836	1,366	
腸内細菌		42,351	41,912	439		
梅毒血清反応		2,280	1,716	564		
ウィルス	日本脳炎	2			2	
	インフルエンザ	ウイルス分離	31		31	
		血清検査	464		31	433
	風疹	408	408			
食品	食品	2,162	523		1,639	
	食中毒・苦情	196			196	
環境関係	飲料水	浄水	2,112	2,086	26	
		井戸水	2,652	2,613	39	
	プール水等	237	28	209		
	その他	80	29	51		
公害関係		939	8		931	
臨床検査(保健所)	結核	611			611	
	リン菌	176	176			
	屎	寄生虫	337	337		
		その他	12	12		
	尿	7,942	7,942			
	血液	血球計算	46	46		
理化学反応		559	559			
血液型		631	631			

表2 一般および勸奨検便

区分	検査件数	法定伝染病菌			サルモネラ					
		チフス	パラチフス	赤痢	B	C <sub>1</sub>	C <sub>2</sub>	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	K
勸奨検便	26,599	0	0	0	3	3	2	3	2	1
一般検便	15,313	0	0	0	0	1	0	0	0	0

表3 防疫検便(接触者)

届出別	事例数	検査件数	法定伝染病菌			その他検出菌		
			赤痢	サルモネラ	コレラ	サルモネラ	病原大腸菌	ビブリオ
真性	赤痢	4	84					
	チフス(パラチフス)	8	103		S. paratyphi-B (1)			
疑似	赤痢	15	157	Sh. dysenteriae2 (1)		S. thompson (2) S. typhi-murium (3)	0-86; K-62 (1) 0-44 (1)	
	チフス	6	17			Styphi-murium (1)		
チフス経過者	40	40		S. typhi (1)				
その他		20	38			S. anatum (1) S. salford (1) S. london (1) S. (K?) (1) S. (B:G-) (1)		K-13 (1) K-7 (1) K-22 (1) V.C0-26 (1)

注) ( )内は株数を示す。

表4 届出チフス、パラチフスのファージ型

ファージ型	合計	チフス					パラチフスB
		A degr.	D <sub>2</sub>	E <sub>1</sub>	M <sub>1</sub>	型別 不能	
菌株数	12	2	2	1	4	1	2

2 梅毒

52年度、梅毒血清学的反応検査件数は2264件であった。当所ではSTS3法を行ない、陽性、疑陽性についてTPHA法、FTA-ABS法にて確認している(表5)。

表5 梅毒血清学的検査

項目	STS3法	TPHA法	FTA-ABS法	陽性
検査件数	2280	186	102	68

表7 1978年インフルエンザ施設別発生状況

(昭和53年1月~53年2月)

施設区分	施設数	在籍者数	患者数			学級閉鎖	学年閉鎖	休校
			全校欠席者数	全校登校患者数	計			
幼稚園	3	498	175	167	342			3
小学校	65	60,724	9,709	13,149	22,858	660	35	9
中学校	42	31,084	6,407	14,117	20,524	139	25	24
高校	20	20,972	4,597	10,595	15,192	29	5	16
その他	3	174	58	75	133			3
計	133	113,447	20,946	38,103	59,049	828	65	55

1月12日、13日及び25日、26日に4施設の小学生18名、中学生8名、計26名の含嗽水からウイルス分離を行った結果、22名からウイルスが分離された。分離株の同定を行ったところ、当時西日本各地で流行していたA香港型(A/Tokyo/1/77株)並びにB型免疫血清で全く凝集抑制されず、A/FM/1/47免疫血清で抑制された事から、日本への侵入が予告されていた、いわゆるAソ連型(H<sub>1</sub>N<sub>1</sub>)ウイルスが疑われたため、日本インフルエンザセンター(予研)に同定を依頼した。

3 ウイルス

1) インフルエンザ

52年度のインフルエンザ様疾患の流行は、12月迄は全く発生報告はなかったが、冬休み明けと同時に流行が始まった。53年1月15日、16日の連休明けに爆発的流行となり、17~23日頃をピーク(10000~15000人/日)として、患者数59,049名を記録し、過去3ヶ年のうち最大の流行となった。

表6 過去3ヶ年のインフルエンザ罹患患者数

年度	流行ウイルス型	患者数
1976	A (H <sub>3</sub> N <sub>2</sub> )	36,994
1977	B	9,228
1978	A (H <sub>1</sub> N <sub>1</sub> )	59,049

その結果4施設で分離されたウイルスはすべてA/USSR/0092/77型であることが判明した(表8)。またこれら患者のうち22名のベア血清についてHI抗体を調べた結果A/Tokyo/1/77、B/Kanagawa/3/76に対してはほとんど抗体価の変動は認められなかったが、A/FM/1/47及び分離株に対して21名(95%)が4倍以上の有意の抗体価上昇を示した。以上の成績から、このたびのインフルエンザ流行のほとんどはAソ連型(H<sub>1</sub>N<sub>1</sub>)ウイルスに因るものと推察された。

表8 インフルエンザウイルス分離株の抗原分析(HI)

(1978年、日本インフルエンザセンター資料)

Antigen	Ferret reconvalescent antisera		Chicken antisera
	A/Tokyo/1/77	A/FM 1/47	A/USSR/0092/77
A/Tokyo/1/77	1024		
A/FM/1/47	<32	2048	1024
A/USSR/0092/77	<32	256	1024
A/Fukuoka/2/78 (A/Fukuoka/6/78)	<32	256	1024
A/Fukuoka/4/78 (A/Fukuoka/16/78)	<32	256	1024

注) カッコ内はOriginal Disignation

2) 日本脳炎

52年度は、真性日本脳炎患者の発生はなく、疑似日本脳炎患者2名の発生にとどまった。

参考資料として当市の豚且I抗体推移を表9に示す。

表9 豚のHI抗体推移(52年)

採血月日	被検数	HI 陽性数	HI 陽性率	2ME 陽性数	2ME 陽性率
7.25	26	0	0	0	0
8.2	27	1	3.7	0	0
8	36	0	0	0	0
20	40	23	57.5	13	56.5
22	24	11	45.8	10	90.9
30	31	24	77.4	15	62.5
9.6	21	21	100.0	3	14.3
27	21	21	100.0	0	0

(福岡市食肉検査所調べ)

3) 風疹

風疹抗体(HI)検査の依頼385名、408検体の検査を行った(表10)、このうち妊婦15名のペア血清について風疹罹患者及び異常者は認められなかった。

表10 風疹抗体(HI)検査状況

	計	初回	第2回	陰性	陽性
一般	374	366	8	110	264
妊婦	34	19	15	1	18
計	408	385	23	111	282

4. 食品細菌及び食中毒

食品行政収去1,639件、製造業、販売業者からの依頼検査が523件であった。食中毒発生16事例、苦情20事例で検査件数は196件であった(表12)。食中毒の発生状況と原因物質について表11に示すとおり、ブドウ球菌によるものが50%以上を占め、なおかつコアグラゼ7型がほとんどである。

昨年よりエンテロキシンA,B,C,抗血清を試作し、食中毒などに使用している。

表11. 昭和52年度細菌性食中毒発生状況

№	発生年月日	摂食者数	患者数	死者数	推定原因食品	病因物質	型別
1	S. 52.6.6	不明	3	0	おはぎ	ブドウ球菌	コアグラゼ7型
2	6.12	42	18	0	弁当	ブドウ球菌	コアグラゼ7型
3	7.19	50	10	0	スパゲッティ	ブドウ球菌	コアグラゼ8型
4	8.2	不明	2	0	焼魚(サバ)	ヒスタミン	
5	8.3	8	5	0	アジ・サバ	ヒスタミン	
6	8.10	9	5	0	ちらし寿し	腸炎ビブリオ	K-1
7	8.17	2	1	0	おにぎり	ブドウ球菌	コアグラゼ7型
8	8.22	7	6	0	かしわのおにぎり	ブドウ球菌	コアグラゼ7型
9	8.25	3	3	0	刺身	不明	
10	9.2	14	7	0	刺身定食	腸炎ビブリオ	K-28
11	9.6	45	40	0	幕の内弁当	ウエルシュ菌	Hobbs 4型
12	9.17	3	3	0	おにぎり ソーセージの油 なめ なら漬	ブドウ球菌	コアグラゼ2型
13	9.26	2	2	0	カレー	セレウス菌	
14	10.24	4	4	0	栗めし	ブドウ球菌	コアグラゼ7型
15	10.31	9	8	0	かしわのおにぎり	ブドウ球菌	コアグラゼ7型
16	S. 52.2.16	3	3	0	いなり寿し 巻寿し ちらし	ブドウ球菌	コアグラゼ7型

5. 環境関係

1) 飲料水(細菌)

浄水検査2,112件で昨年より809件の増であった、これは「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」

によるものである。

井戸水の検査2,652件で400件の増加であった(表12)

2) 海水浴場

博多湾周辺部の9海水浴場27ポイントについて、6月

と8月の2回にわたり延180検体について、大腸菌群を指標とした汚染度実態調査を行った(資料4)。

666件、工場排水159件の大腸菌群の検査を行った(表12)。

6. 公害関係

海水(博多湾)114件、河川(13河川, 30ポイント)

表12. 食品・環境・公害検査

区分	検体名	検体数			項目																				
					計	生菌数	大腸菌群	E. coli	ブドウ球菌	ビブリオ	サルモネラ	シゲラ	病原大腸菌	B. テレウス	エンテロコリナ	腸球菌	O1. ウエルチ	コレラ菌	カビ・酵母	乳酸菌	ヒスタミン	耐熱菌	嫌気性菌	総菌数	
		計	行政	有料																					
総計		8,375	3,021	5,287	16,957	6,043	7,518	109	932	657	276	194	194	249	194	1	199	2	12	55	4	5	3	15	
食品	計	2,152	1,639	523	4,218	1,068	1,606	109	737	462	81	1	1	54	1	1	6	2	12	54		5	8	15	
	牛乳・乳飲料	139	115	24	273	113	132		2											19				7	
	酸酵乳飲料	35	15	20	78	3	35													35					
	ソフトクリーム・アイス	485	362	123	1,017	485	485		47																
	刺身	301	299	2	303	2	2		299																
	弁当・惣菜	500	383	117	1,194	138	483		496	1	9	1	1	54	1	1	5						4		
	食肉・食肉製品	110	69	41	188	85	91	18	18	14	2						1						1	3	
	菓子・パン	65	20	35	145	55	55		35																
	冷凍食品	158	82	71	834	158	112	45	12	7	5														
	ジュース等	32	21	11	49	10	31		6												2				
	豆腐	48	41	2	88		48	43		2															
	水蜜	26	9	17	52	26	26																		
	ふきとり	257	212	44	456	32	104		116	188	63										3				
	麺類	5		5	15	5	5		5																
	食品材料																								
原乳	8	8		8																				8	
その他	13	2	11	28	11	2	3		3								2	7							
食中毒・苦情	計	196	196		1,763	11	195		195	195	195	193	193	195	193		193			1	4				
	便	52	52		468		52		52	52	52	52	52	52	52		52								
	食品	63	63		566	11	62		62	62	62	60	60	62	60		60			1	4				
	吐物・ふきとり	81	81		729		81		81	81	81	81	81	81	81		81								
環境	計	5,081	3,256	4,756	9,944	4,871	5,073																		
	浄水	2,112	26	2,086	4,226	2,122	2,104																		
	井戸水	2,652	39	2,613	5,304	2,652	2,652																		
	プール水等	287	209	28	294	57	287																		
	浴場水	40	88	2	42	2	40																		
	浄化槽排水	2	2		2		2																		
	おしぼり	14	11	8	28	14	14																		
その他	24		24	48	24	24																			
公害	計	939	931	8	1,032	98	939																		
	海水	114	114		147	33	114																		
	河川水	666	666		710	44	666																		
工場排水	159	151	8	175	16	159																			